

中学校国語科における 「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方の研究 —— 「見取り方例シート」の開発を通して ——

長期研修員 新井 敏弘

《研究の概要》

本研究は、「主体的に学習に取り組む態度」を日々の授業における「振り返り」の場面で見取ることを目指した研究である。

中学校第2学年を例に、「思考力、判断力、表現力等」の指導事項ごとに単元の設定例、学習計画例及び振り返りの場面からの評価規準例を1枚に記載したものを「見取り方例シート」として作成した。

教師が単元における指導と評価の計画を作成する際や「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際に、「見取り方例シート」を使用することが有効であることを明らかにする。

キーワード 【国語一中 主体的に学習に取り組む態度 見取り方例シート 振り返り
単元計画 学習評価】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-03 令和2年度 273集

I 主題設定の理由

学習指導要領（平成29年7月）第1章総説では、中央教育審議会答申（平成28年12月）において示された「汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要」との提言を受けて、全教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に再整理している。さらに、目指すべき資質・能力の再構成を受けて、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月。以下「参考資料」という。）が国立教育政策研究所より示された。参考資料では、学習評価の考え方と基本的な流れ等が解説されているほか、第3編の「単元ごとの学習評価について（事例）」で四つの事例が示され、評価する内容や評価方法が記述されている。

中学校においては、令和3年度より学習指導要領（平成29年7月）が完全実施となることと合わせて、学習評価においても三観点での評価が実施される。国語科においては、従来の五観点での評価が三観点となった。具体的には従来の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」は、主に「思考・判断・表現」として「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」とともに評価することになる。三観点のうち、「知識・技能」「思考・判断・表現」については、今までの評価方法を検討、再確認することで見取ることができると考えられる。「主体的に学習に取り組む態度」については、従来の「関心・意欲・態度」から名称が変わったことにより、従来の評価と全く別物のように捉えている実態がある。何か大きく変更しなければならないと構えてしまい、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に対して特に不安を抱えているのが現状である。

各教科の評価について、県内の中学校国語科教師に調査したところ、「新学習指導要領の実施に伴い、学習評価を準備できた」との回答はほとんど見られず、さらに回答者全員が「評価に不安がある」と答えている。研究協力校においても、「指導と評価の一体化」に向けた評価の整理を受け、各教科において新学習指導要領に伴う学習評価を準備している最中である。新学習評価に関する本県の説明会もあり、各教科ともに「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」に関する観点別評価については概ね理解しているが、「学びに向かう力、人間性」に関する評価上の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、未だ把握できないという声を聞く。「粘り強い取組」「学習調整力」などのキーワードは耳にするものの、従来の「関心・意欲・態度」の評価とどのように変わったか、どのように評価していくかなど、具体的な評価の見取り方について方向を定めることに時間を要している。

そこで、「主体的に学習に取り組む態度」を教師が理解した上で評価でき、その評価を通じて教師が生徒の支援や指導改善につなげることができるようになるための方策が必要であると考えた。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について理解し、見取りの方法を考えていきたいと望んだ。

以上のことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法に焦点を当てた研究を行う。具体的には、各単元における授業の実際の中で、どのような評価規準が適切であるかを考えていきたい。また、「いつ、どのような場面」で、「どのような視点」から見取るかを例として示す。このように、「主体的に学習に取り組む態度」における評価方法の例示ができれば、学校現場の教師が指導計画を立てたり評価を行ったりする際に役立てられ、教師が生徒の支援や指導改善につなげることができるようになるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校国語科において、教師が単元における指導と評価の計画を作成する際や「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際に、「見取り方例シート」を使用することが有効であることを明らかにする。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 指導と評価の一体化

「参考資料」には、指導と評価の一体化についての考え方から内容までが記述されている。学習指導要領（平成29年）によって、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理されたことを受け、観点別学習評価も三観点になった（図1）。この三観点到して生徒の学習状況を見取るための評価計画を立てることが、指導改善を進める上では重要である。教師は、指導のねらいに応じて授業の中での生徒の学びを評価し、授業改善に生かしていく。このサイクルが指導と評価の一体化である。本研究では評価計画を含めた単元計画を作成し、教師自身が指導を振り返り、次の単元計画につなげていくことができるような教師用の評価補助資料の開発を目指す。

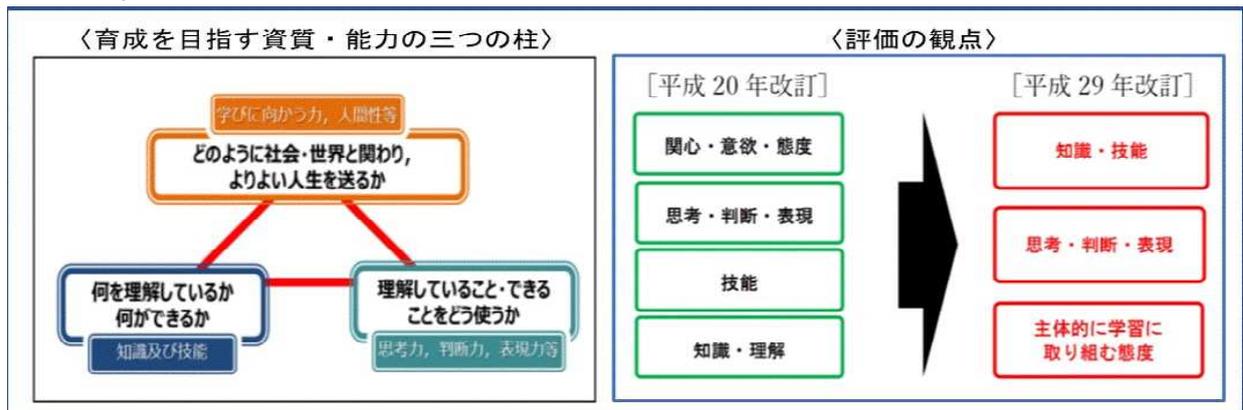


図1 三つの柱と評価の観点

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の具体的内容については、児童生徒の実態や、学校の実情に合わせる必要があるため、学習指導要領の「2 内容」には示されていない。単元ごとに評価規準を作成する際は各学年別の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて、学習指導要領に示された学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成することが求められている。「主体的に学習に取り組む態度」について、「参考資料」では「知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価することが重要」とされている。そのため、各教科等の評価の観点の趣旨に照らして、二つの側面を評価する（図2）。

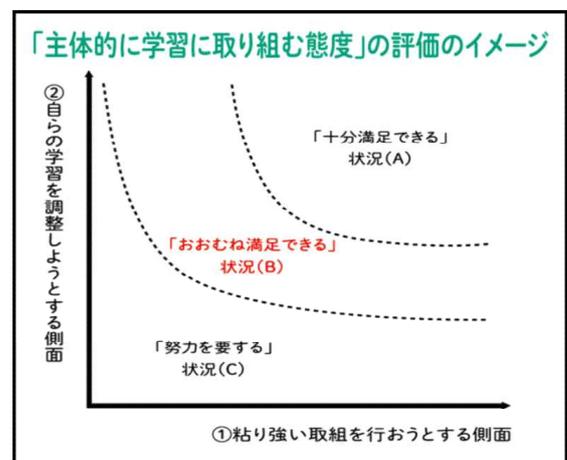


図2 評価のイメージ

また、「参考資料」には、評価を行う際に考慮する材料として、具体的に以下のものが例示されている。

○ノートやレポート等における記述

○授業中の発言

○行動観察

○児童生徒による自己評価や相互評価等の状況

○児童生徒による自己評価や相互評価等の状況

本研究で開発を目指す見取り方例シートは、このうち「ノートやレポート等における記述」及び「児童生徒による自己評価や相互評価等の状況」を主な評価材料として扱う。

2 文言の定義

(1) 「見取り方例シート」とは

教師が指導計画や評価計画を含めた単元計画を作成する際や、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際に見取り方の例として使える、指導との評価のための補助資料である。

各シートには、領域と指導事項を基にして設定した単元と、言語活動例に沿った「単元名」「学習計画」「主体的に学習に取り組む態度評価規準例」「評価を見取る場面」、段階ごとの「評価規準例」「振り返りで見取る視点」と「評価Bに満たない生徒や記述の仕方等で悩む生徒に示す話型等」を示している（図3）。作成に当たっては「参考資料」に沿い、「教師が学習の進め方を適切に指導しながら、学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付くよう支援すること」を念頭に置き、単元の最終段階で見取る評価（いわゆる「記録に残す評価」）の前段階として見取る場面を設定している。教師にとって見やすく「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方として使いやすいよう、一単元一枚のシートとしている。また、教師にとって、より具体的な生徒の姿を見いだすことができ、理解しやすく使いやすいシートになるように、言語活動例に沿った「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を例示している。

目次（インデックス）のページ				見取り方例シートのページ		
ページ	指導事項	言語活動例	「単元名」 (めあて)	領域	話すこと・聞くこと	話ア
話ア 12	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	部活動について発表したり、発表について質問や助言をしたりする活動。	「 <u>新入生に自分の言葉で自分の考えを伝えよう</u> 」 <u>(部活動紹介をしよう)</u>	指導事項	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	
話イ 13	イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	街の活性化のために考えたことについて議論や討論をする活動。	「 <u>時間まで生討論！〇〇の街を活性化するには</u> 」 <u>(役割を決めて討論しよう)</u>	言語活動	部活動について発表したり、発表について質問や助言をしたりする活動。	
話ウ 14	ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	自分の趣味や好きなもの、場所について対話や質問を行う活動。	「 <u>伝えよう！「私のお気に入り</u> 」」 <u>(プレゼンテーションをしよう)</u>	「単元名」 (めあて)	「 <u>新入生に自分の言葉で自分の考えを伝えよう</u> 」 (部活動紹介リハーサルをしよう)	
話エ 15	エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	選挙演説について自分の考えと比較しながら考えをまとめる活動。	「 <u>あなた一票が未来を変える！</u> 」 <u>演説を聴いて自分の考えと比べよう</u> 」 <u>(生徒会選挙で投票しよう)</u>	1. 主な活動内容	図表を用いて提案する	
話オ 16	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	クラスのキャッチコピーについて話し合い、結論を導く活動。	「 <u>学校のWebページに載せる「クラスのキャッチコピー」を考えよう</u> 」 <u>(クラスのキャッチコピーを考えよう)</u>	2. 学習計画（〇数字は見取る場面）【4時間】		
				(1) 新入生に部活動を紹介する集会のリハーサルに向けて生徒が見通しをもち、図表を用いて提案するために、どのような順序で活動すればよいかを生徒が計画し確認する。		
				(2) 部員アンケートなどの調査・取材を行い、収集した情報を基に資料を作成する。		
				(3) プレゼンテーションのための台本を作る。		
				(4) 部活動紹介集会に向けたプレゼンテーションリハーサルを行い、提案の在り方について友達と意見を交換する中で、本単元で学んだ事柄について振り返る。		
				3. 主体的に学習に取り組む態度 評価規準例		
				「新入生に部活動のよさについて紹介する」という目的のために粘り強く発表方法を工夫して思いや考えを提案しようとし、プレゼンテーションに向けた準備の進み具合や状況を自分で把握しながら完成させようとしている。		
				評価を見取る場面	評価規準例 (B 概ね満足できる状況)	振り返りで見取る視点(生徒に与える視点) 「評価Bに満たない生徒や記述の仕方等で悩む生徒に示す話型等」
				②収集した情報を基に資料を作成した後の振り返り	・新入生にとって分かりやすい資料を作成するために粘り強く情報を集めたり、整理したりしようとしている。	・資料を作成する際に気付いたことや意識したこと。 「新入生に伝えるために～ということ意識して資料を作成した」
				③台本を作成した後の振り返り	・新入生が興味を示すような発表にするために、発表方法と合わせて台本を考え、よりよいものになろうとしている。	・紹介集会に向けて、まだ準備したいことや必要だと思うこと。 「発表では～が不十分なので～したい」
				④プレゼンテーションリハーサルを行い、提案の在り方について友達と意見を交換した後の振り返り	・友達の見解を基に、本番に向けての発表方法について更に検討しようとしている。	・友達の見解が参考になったこと（参考にした意見）。 「〇〇さんの～という意見が参考になった。なぜなら新入生に紹介するのに～だから。本番までに…」

図3 見取り方例シートのイメージ（一部）

(2) 「振り返り」とは

単位時間または単元の終了時に行う、生徒自身が学習事項や学習した過程を思い返して感想や気付き等を記述する活動、またはその活動によって生徒自身の言葉で記された文章を指す。本研究では、「振り返り」を「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法として位置付け、見取り方を例示する。

3 見取り方例シートの概要

見取り方例シートには、指導事項に基づく言語活動例を記載している。

教師は、指導事項と生徒の実態に基づいて単元計画を作成し、授業を実践していく中で、指導に生かす見取りの場面で生徒を評価する。評価が概ね満足できる状況にない生徒に対しては、書面や口頭でのやりとりの中で適切に支援していく。記録に残す見取りでは、教師は単元全体のねらいに沿って生徒を見取り、評価を行う。この一連の流れについて、見取り方例シートは教師の作業を補助する役割を担う。単元計画を立てる際や、授業での評価を指導に生かす際に見取り方例シートを役立てていくイメージを図4に示した。

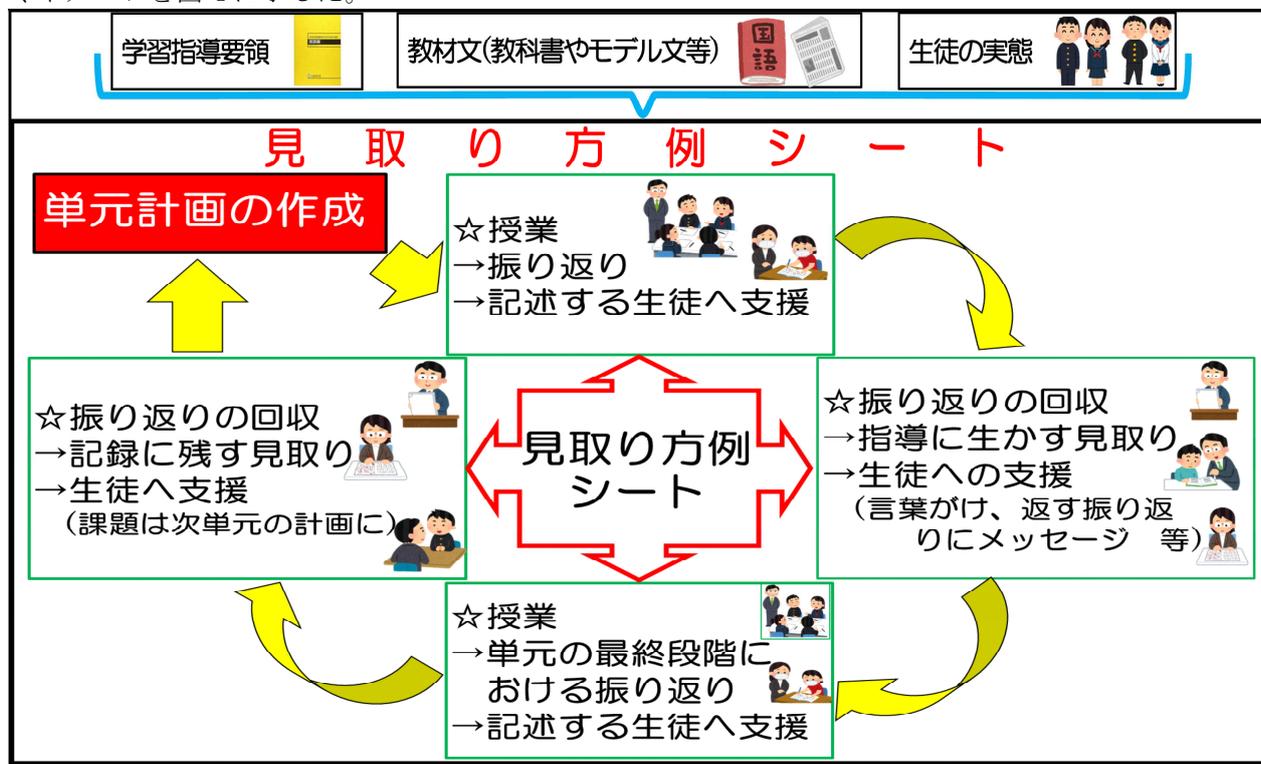


図4 見取り方例シートの使い方のイメージ

領域	—	
指導事項	_____	
言語活動	_____	
「単元名」(めあて)	「_____」(_____)	
1. 主な活動内容 _____		
2. 学習計画 (○数字は見取る場面) 【4時間】		
(1)	_____。	
(2)	_____。	
(3)	_____。	
(4)	_____。	
3. 主体的に学習に取り組む態度 評価規準例		
_____。		
評価を見取る場面	評価規準例 (B 概ね満足できる状況)	振り返りで見取る視点 (生徒に与える視点) 「評価Bに満たない生徒や記述の仕方等で悩む生徒に示す話型等」
②	_____。	_____。 「_____」
④	_____。	_____。 「_____」

図5 見取り方例シートの項目

図5は見取り方例シートに共通する項目を記したものである。冒頭に指導要領(思考力、判断力、表現力等)に係る「領域」を記載している。

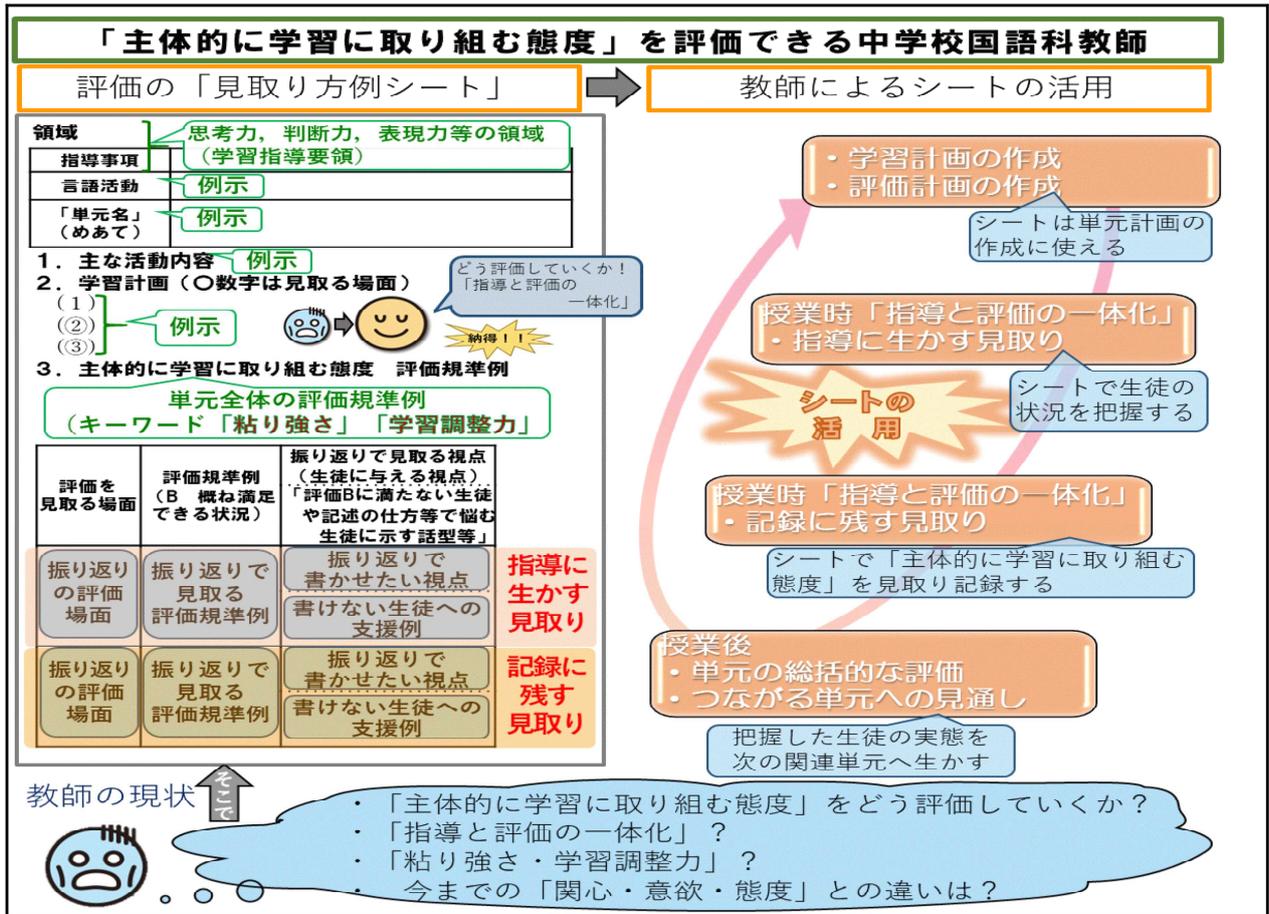
表の上部に領域に係る「指導事項」、指導事項に則った「言語活動」、「単元名」、「めあて」を記載している。

表の上部に記した内容に合わせ、「1. 主な活動内容」を設定し、「2. 学習計画」を作成している。評価規準は、数字に丸数字を付けた授業時の振り返り場面において、規準を設けている。

「3. 主体的に学習に取り組む態度 評価規準例」では、単元全体の規準例を記載している。

表の下部に、各振り返りの場面として「評価を見取る場面」と場面ごとに評価Bとなる「評価規準例」、及び各場面に生徒に与える「振り返りで見取る視点」と評価Bに満たない生徒や記述に悩む生徒やへの支援例として声掛けやコメントで示す「話型等」を記載した。

4 研究構想図



IV 開発の計画と方法

1 計画の概要

見取り方例シートを作成し、その有効性について任意の中学校国語科教師を対象とした調査を行う。まずは見取り方例シートを試作し、「主体的に学習に取り組む態度」が見取れるものになっているかどうかを調査回答より分析する。

分析の中で、回答で指摘された意見の検討を行い、教師にとって使いやすく指導改善につなげられる見取り方例シートになるように改善を重ねていく。

改良後、各校の教師にシートに関する意見等を調査し、シートの完成を目指す。さらに、研究協力校においてシートを用いて作成した単元計画に基づく授業を実践し、「主体的に学習に取り組む態度」を生徒の振り返りによって見取ることができることを確認する。

2 作成方針

(1) 見取り方例シート作成の全体に関すること

- ア 学習計画及び内容は学習指導要領(平成29年告示)解説国語編に提示されている「言語活動例」を中心に作成する。
- イ 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(令和2年3月)の事例等を参考に評価規準を作成する。
- ウ 一つの内容のまとまりを単元として一枚の用紙で表すことで、教師にとって見やすく使いやすいシートにする。
- エ 作成に当たっては、中学校における一学年分の指導事項を網羅することで、全学年に応用できるようにする。
- オ シートの使い方を明確にするため、評価の考え方や使い方について冒頭に付記する。

- (2) シート内の「領域」「指導事項」「言語活動」「『単元名』(めあて)」「学習計画」に関すること
 カ 領域及び指導事項から言語活動例、単元名とめあてを載せることで、学習指導要領と単元計画のつながりを明確にする。
 キ 学習計画に丸数字を付けることで、「主体的に学習に取り組む態度」をどの場面で主に見取るかを明確にする。
- (3) シート内の「主体的に学習に取り組む態度 評価規準例」に関すること
 ク 「主体的に学習に取り組む態度」における評価規準例を載せることで、教師が「内容のまとまりごとの評価規準」(単元の評価規準)を作成する際に簡易になったり、他の単元における規準作りにも参考になったりするようにする。
 ケ 「主体的に学習に取り組む態度」における評価規準例(単元全体)は、育成を目指す資質・能力と言語活動に対応して、以下の①～④の内容を全て含めるように記載する。
 ① 粘り強さを発揮する生徒の姿
 ② 自らの学習を調整しようとする生徒の姿
 ③ 粘り強さを発揮してほしい内容
 ④ 自らの学習の調整が必要となる具体的な活動
- (4) シート内の「評価を見取る場面」「評価規準例」「振り返りで見取る視点」に関すること
 コ 評価を振り返りで見取ることができるよう、場面ごとに適切な評価規準例を作成する。
 サ 評価規準例において、A評価は多様な場合が想定されるため記載せず、B評価を例示する。
 シ 教師にとって分かりやすい規準例となるよう、具体的な生徒の姿を記述するようにする。
 ス 教師が生徒に「振り返りで見取る視点」を与える際の例示をすることで、生徒が「主体的に学習に取り組む態度」に関する振り返りの内容を記述できるようにする。
 セ 指導に生かす評価や、記録に残す評価において、評価Bに満たない生徒や記述の仕方等で悩む生徒のための声掛けや、モデルとなる話型を例示することで、教師が評価を指導に生かし、生徒の力を伸ばすことにつなげられるようにする。

3 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	見取り方例シートは、教師にとって指導計画及び評価計画の作成に有効か。	・アンケート (研究協力校・中学校国語科を中心とした任意の教師を対象)
見通し2	見取り方例シートを活用して「振り返り」を評価し、教師は授業改善に役立てることができるか。 生徒は学びの実感や次の学びへの意欲を高めているか。	・研究協力校での授業実践 ・「振り返り」の記述

V 研究の結果と考察

1 見取り方例シートの試作に伴う調査

見通し1の事前段階として、見取り方例シートの試作を県内の中学校国語教師に送付し、調査を行った。その結果と分析を以下のとおり記す。

対象	県内教諭 22名
有効回答数	15 (令和2年8月31日現在)

調査回答では、「振り返りを評価に用いるという考え方は現実的でよい」という意見や、見取り方例シートに指導事項、言語活動、単元のめあて、学習計画等を併記したことにより「学習指導要領を意識した単元の活動ができる点が有効である」という肯定的な意見が多数だった。加えて改善の要望

もあり、シートを改善する上で大いに参考になった。

以下は、新学習指導要領実施に伴う準備等についての回答である。

質 問	回 答 (回答数)
新学習評価について学習計画を作成しているか	「作成している」(1) 「作成していない」(14)
新学習評価に変わり、不安を感じることはあるか	「ある」(15) 不安な点 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方について(6) ・五観点から三観点に変わる事(3) ・各観点の重みは同じでよいのか(2) ・各観点の評定への生かし方(2) ・学びに向かう力、人間性を適切に評価できるのか(1) ・三段階三観点の評価を基に五段階評定をしていくこと(1) ・指導要領改訂のポイントや評価の変更ポイント(1)

回答者のほとんどが、教師としての在職年数20年目以上の教員である。そのような教師でも、全員が新評価に対しての不安を抱えているということが明確になった。また、不安を感じる内容は「主体的に学習に取り組む態度」に関わる内容が最も多かった。新たに必要な学習計画について作成している中学校は1校のみで、その1校についても、従来の計画を新評価で使用されている文言に変えただけという回答だった。

以上の結果から、中学校において評価計画の指針となるものが求められている現状と、作成方針の方向性を確認することができた。

2 見通し1に関する実践と考察

試作に伴う調査結果を基に修正したシートと、「主体的に学習に取り組む態度」や「本シートの使い方」等を記したものを添え、県内の中学校国語教師を対象として、授業実践を含めた使用感についてアンケートを行った。その結果と分析を以下のとおり記す。

対 象	県内教諭 7名
有効回答	6
見取り方例シートを用いた授業実践(回答人数)【○肯定的な意見 ●課題 ➡改善案】	

指導事項に係る単元のめあて	<div style="background-color: #0070C0; color: white; text-align: center; padding: 2px;">使いやすい(6)</div> <p>○興味や関心の高まるめあてとなっている。 ○具体的に示されている。 ○よく練られている。 ○生徒が何をすべきか明確になっている。 ●「こういう姿になってほしい」という生徒の姿が見えるような表現にすべき。 ➡指導事項に係る例として、単元のゴールとともに設定した。本シートの例が、各校の生徒の実態に合わせためあてやゴールを設定する上で参考になればよいと考える(作成方針シ,セ)。 ●単元のゴールとめあてで各々別段階のものがあり、合致していないと感じた。 ➡単元のめあてについては言語活動を主にしたねらいの例であり、単元のゴールについては活動内容を主にしためあてとして生徒に示す例である。冒頭の資料の中で説明しているが、教師にとって更に分かりやすい書き方を工夫したい(作成方針ア,イ,ウ,オ)。</p>
学習計画	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="background-color: #0070C0; color: white; text-align: center; padding: 2px;">使いやすい(5)</div> <div style="background-color: #FFD700; color: black; text-align: center; padding: 2px;">使いにくい(1)</div> </div> <p>○一目で分かるように記述されている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○学習段階を踏まえた内容となっている。 ○指導者側にとって参考になる。 ○一から単元を構想する時間が減り、授業づくりに便利に活用できる。 ○若手教員にとっても明確な目安になる。 ●指導上の留意点も載せるべきではないか。 ➡学習計画に合わせて指導上の留意点もあれば教師にとって授業しやすくなると思うが、「一単元一枚」で「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方例を示すために割愛する（作成方針ウ）。
「主体的に学習に取り組む態度 評価規準例」について	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">適切である(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章中の言葉等が精選されている。 ○段階で示されているので、振り返りの時間を有効に使える。 ○他学年での参考になる。 ○具体的な記述例があるので分かりやすかった。 ○文言が適切である。
評価を見取る場面	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">使いやすかった(5) 使いにくかった(1)</p>
評価規準例(場面ごと)	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">使いやすかった(5) 使いにくかった(1)</p>
振り返りで見取る視点、生徒に示す話型等	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りで視点を与えることは素晴らしいと思うが、それはあくまで振り返りの書き方が分かるということに過ぎないと思う。 ➡振り返りの際生徒に与える視点について検討を行っていくが、生徒自身が認識した粘り強さや学習調整力について、振り返りの場を通して表現方法を知っていくことは、今後の「主体的に学習に取り組む態度」を向上させる上で大いに役立つと考えられるので、書き方（表現の仕方）と合わせて育むことが期待できる（作成方針オ，ス，セ）。
振り返りの場面ごとの評価規準例	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">使いやすかった(5) 使いにくかった(1) どちらも言えない(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●評価規準例としてBの姿が書かれていたが、Aはどのような姿が見られるといいのか。 ➡「学習評価の在り方ハンドブック」（国立教育政策研究所）の「Q&A」において、『「十分満足できる」状況（A）と判断できる児童生徒の姿は多様に想定される』とあり、見取り方例シート内にはあえて「十分満足できる」状況（A）を例示しない方が、多様な想定を限定することを防げるのではないかと考えたためである。本シートを参考にした上で単元計画を練り、「学年会や教科部会等」において生徒の実態も加味しながら多様な姿を設定してほしいと考える（作成方針イ，ク，サ）。
単元における最終段階の評価までに、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」は向上したか	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">向上した(4) どちらも言えない(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返りが次につながる形で作成されている。 ○学習調整力や粘り強さは身に付けることにより、学力の向上につながる大切な力であることが実感できる。 ○学習に関する自己調整を行いながら学習を積み重ねていけば、学習に対する主体的な関わり方は向上していくと思う。 ●粘り強く叙述を読み返すことを、振り返りで見取ること自体が難しいと感じた。 ➡粘り強さを発揮する姿や、自らの学習を調整しようとする姿を見取ること自体が難しいと考えて、見取る場を模索し始めたのが本研究の発端である。30名の生徒一人一人を授業中で評価することが難しいならば、生徒が考えを残したものの（振り返り）が評価に使えないかと研究してきた。できる限り生徒に与える

	<p>視点を検討していきたいと考える（作成方針セ）。</p> <p>●すべてが「見取り方例シート」通りにいくとは限らず、また、教師の経験等によって左右される面もある。</p> <p>➡経験年数によって授業等に差が出てくる面もあるだろうが、補助資料なしで教科書を見て、単元を計画し「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方を考えるよりも、本シートの活動例や見取り方例を参考にして授業を作る方が教師が抱える負担が軽減されると考え、本シートを開発してきた（作成方針エ、カ、ク、セ）。</p>
その他シートに関する意見	<p>○添付資料（「はじめに」「主体的に学習に取り組む態度について」「見取り方例シートの使い方」）に研究者の思いが詰まっており、見取り方例シートのよさが分かった。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることが、「主体的に学習に取り組む態度」を育むことにつながるということが分かった。</p> <p>○小学校にも（添付資料やシートが）欲しいと感じた。</p>

振り返りの実施状況		
①振り返り実施の有無	実施している(6)	
②振り返りに要している時間	5～10分(5)	3～5分(1)
③振り返りを記入する用紙	主にノートに記入(3)	主に授業ワークシート内に記入(2) ノートとワークシートの併用(1)
④振り返りの記入方法	主に記述式(4)	記述と選択を併用(2)
⑤校内で決められた様式や方法について	統一されていない(6)	
その他校内の振り返りについて	<p>・「めあて」に沿った振り返りになるよう校内研修で検討中。</p> <p>・時間の確保に努めている。</p> <p>・「めあて」に対するものは「まとめ」として、学び方や学習全般に関わることは「振り返り」として区別している。</p>	

全体として前向きな意見が多く、見取り方例シート開発が意義あるものと感じられた。改善すべき内容の意見については、指導事項ごとに見取り方例シートを見直した。より教師が分かりやすく使いやすいシートを目指して上記の改善案を検討し、見取り方例シートに加筆修正を行った。

アンケート回答者の全てが「評価規準例」「支援例」とともに「適切である」と回答していた。また、「その他の意見」として、「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることが「主体的に学習に取り組む態度」を育むことにつながるという、まさに指導と評価の一体化のねらいとなる意見もあった。このような回答や、実践からの分析により、「主体的に学習に取り組む態度」を見取り方例シートによって見取ることができたとと言える。

各校における振り返りの実態からは、形式や記入方法には差異があるものの、本シートを有効に活用し、振り返りを「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料として用いていたことが分かった。汎用性を高め、振り返りの形態に関わらず、どの学校でも参考となり得るような見取り方例シートの必要性を感じた。

3 見通し2に関する実践と考察

「見取り方例シートを活用して「振り返り」を評価し、教師は授業改善に役立てることができるか」及び「生徒は学びの実感や次の学びへの意欲を高めているか」を検証するため、研究協力校において授業実践を行った。その際活用した見取り方例シートと評価の実際は以下のとおりである。

(1) 単元の目標と言語活動及び評価規準の設定

指導事項を「A話すこと・聞くこと(イ)」とし、指導案を作成した。本単元では、見取り方例シート(図6)と「反対意見を想定して話すには」(教育出版)を基に、住んでいる地域を更に活性化するためにはどうしたらよいかをテーマに、根拠の適切さや論理の展開などに注意しながら意見を考え、討論会を行うことを言語活動に設定した。

さらに、自分の考えについてより説得力をもてるようにするために、反対意見を想定することをねらいとした。

自分と異なる立場であったらどのような反論を述べるかを想定し、想定した反論に対してより説得力がある反論を考える過程で生徒の粘り強さを発揮させたいと考えた。また、討論会を設定することで、相手を納得させるための準備等で学習の進め方を調整できるようにしたいと考えた。

(2) 単元の指導と評価計画の設定

見取り方例シートを基に、「主体的に学習に取り組む態度」を振り返りで見取することを主軸にして、以下の指導案を作成した。

「見取り方例」(第2学年)		話イ
領域	話すこと・聞くこと	
指導事項	イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	
言語活動	街の活性化のために考えたことについて議論や討論をする活動。	
「単元名」(めあて)	「時間まで生討論!〇〇の街を活性化するには」(役割を決めて討論しよう)	
1. 主な活動内容 役割を決めて討論する 2. 学習計画(〇数字は見取る場面)【4時間】 (1) 役割を決めて討論会を行うことを知り、生徒が学習の進め方について見通しをもった上で提案するアイデアを決め、その根拠について材料を集める。 (2) 「人」「自然」「行事」などで分類してグループを作り、討論会の準備をし、見通しをもった上で材料の吟味、取捨選択についてグループごとに話し合う。 (3) 予想される質問や反論についてグループで話し合いながら、発表メモを作るとともに、他グループの主張について質問や反論をグループで話し合う。 (4) 交代で司会者、提案者の役割を決め、討論会を行い自分や相手の主張の明確さ、より納得させるための話の構成について振り返る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 評価規準例 「街を活性化」させるためのアイデアについて、根拠の適切さや論理の展開について粘り強く工夫して話の構成を考え、相手に納得してもらうため、見通しをもって、予想される反論や根拠を基に話の構成を考えている。		
評価を見取る場面	評価規準例 (B 概ね満足できる状況)	振り返りで見取る視点(生徒に与える視点)
②グループを作り、材料について話し合った後の振り返り	・構成について粘り強く検討し、討論会の見通しをもってグループ内で作業を進めようとしている。	・評価Bに満たない生徒や記述の仕方等で悩む生徒に示す語彙等 ・グループで話し合っただけで参考になったことや難しかったこと 「〇〇さんの～という意見が参考になった。なぜなら～と思うから」 「話し合っただけで難しかった。なぜなら…」
③発表メモを作った後の振り返り	・相手を納得させることができるような構成や表現の工夫について粘り強く検討し、次回の討論会に向けてメモを準備しようとしている。	・グループで話し合っただけで参考になったことや注意したこと 「〇〇さんの～という意見が、他の(グループの)人から予想される『～』という反論に的確に答えることができている参考になった」 「～に注意した。なぜなら相手を納得させるのに…」

図6 実践で使用した見取り方例シート

対象 研究協力校 中学校第2学年(6名)
 期間 令和2年11月25日～11月26日(全4時間)
 単元名 時間まで生討論!私たちの街を活性化するには 「反対意見を想定して話すには」

1 単元の目標

- (1) 話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア
- (3) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 本単元における言語活動

街の活性化のために考えたことについて議論や討論をする活動。

(関連:〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)イ)

「3. 主体的に学習に取り組む態度 評価規準例」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ	①目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。A(1)ア ②自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。A(1)イ	①「街を活性化」させるためのアイデアについて、根拠の適切さや論理の展開について粘り強く工夫して話の構成を考え、相手に納得してもらうため、見通しをもって、予想される反論や根拠を基に話の構成を考えている。

4 指導と評価の計画（4時間）

「2. 学習計画」

「2. 学習計画」
（見取る場面）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	司会者、提案者等の役割を決めて討論会を行うことを知り、生徒が学習の進め方について見通しをもった上で提案するアイデアを決め、その根拠について材料を集める。	〔思考・判断・表現〕①	ワークシート
2	「人」「自然」「行事」などで分類してグループを作り、討論会の準備をし、見通しをもった上で材料の吟味、取捨選択についてグループごとに話し合う。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に学習に取り組む態度〕①	ワークシート 振り返り（ノート）
3	予想される質問や反論についてグループで話し合いながら、発表メモを作るとともに、他グループの提案について質問や反論をグループで話し合う。	〔思考・判断・表現〕② 〔主体的に学習に取り組む態度〕①	発言・発表・ワークシート 振り返り（ノート）
4	交代で司会者、提案者の役割を決めて討論会を行い、自分や相手の主張の明確さ、より納得させるための話の構成について振り返る。	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕②	ワークシート

指導案の「3 単元の評価規準」における「主体的に学習に取り組む態度」には、見取り方例シートにおいて設定した単元の評価規準をそのまま取り入れた。

同じく指導案の「4 指導と評価の計画」には、見取り方例シートの「2. 学習計画」及び「評価を見取る場面」で設定した振り返りの場면을当てはめ、「主体的に学習に取り組む態度」を振り返りを主に評価することを計画した。

【単元の流れ】

「2. 学習計画」

時	過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	つかむ	○司会者、提案者等の役割を決めて討論会を行うことを知り、学習の進め方について見通しをもつ。 ○街を活性化させるためのアイデアを考え、根拠や根拠に関連する具体的な体験や出来事について材料を集める。 ○材料を整理しながら話す内容を検討する。	・例として教師が実際に提案発表して見せることで、討論会に興味をもたせるようにする。 ・教材文である教科書の例を示し、討論会の見通しをもたせる。 ・「根拠」「理由」「反論」などをキーワードにしてメモできるようなワークシートを配付することで、反論を想定して話すために材料を整理しやすくする。	〔思考・判断・表現〕① ワークシート ・提案するアイデアを決め、その根拠や具体的な経験等、話す材料の整理と反論の検討。 「評価規準例 B 概ね満足できる状況」
2	追究する	○「人」「自然」「行事」などで分類してグループを作る。 ○討論会の見通しをもった上で材料の吟味、取捨選択についてグループごとに話し合う。	・生徒のアイデアにより分類できない場合には、アイデアがより似ている生徒や近くの席同士等で集まり交流できるようにする。 ・互いに意見を述べ合うことで、更に説得力ある根拠や具体例を思いついたりよりよいアイデアを創出したりすることができるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 振り返り（ノート） ・聞き手により説得力をもたせるための表現や構成の検討。 〔思考・判断・表現〕① ワークシート ・提案するアイデアの決定と内容や材料の検討。
3		○予想される質問や反論について、個別に考える。 ○予想される質問や反論についてグループで話し合いながら、発表メモを作る。 ○他グループの提案について質問や反論をグループで話し合う。	・自分の考えに対して予想される反論について、個別で考える時間を設けることで、自分の考えを広げ、その後のグループ交流につながるようにする。 ・他グループの提案を聞く際には理由や根拠まではあえて聞かないように指示することで、実際の討論会場で多様な意見が出るようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 振り返り（ノート） ・聞き手を納得させるための答え方の検討やメモの準備。 〔思考・判断・表現〕② ワークシート ・異なる立場での反論の想定と、反論に対応できる構成の再検討。
4	まとめる	○交代で司会者、提案者の役割を決めて討論会を行う。 ○自分や相手の主張の明確さ、より納得させるための話の構成について振り返る。	・司会者に進行表を渡すことで、討論会が円滑に進められるようにする。 ・提案者にはメモを見つけて提案しないよう指示することで、聞き手の顔を見て話すことができるようにする。 ・討論会に向けての準備から本時までの単元全体を振り返ることで、自身の学びや成長に気付けるようにする。 ・振り返りの際、記述の仕方等で悩む生徒にはその都度声を掛けたり視点を与えたりすることで、全員が自身の気付きや変容を書くことができるようにする。	〔知識・技能〕① ワークシート ・話の構成や展開。 〔思考・判断・表現〕② ワークシート ・聞き手を納得させるための適切な根拠や論理の展開の検討。

指導案「単元の流れ」については、見取り方例シートの「2. 学習計画」及び「評価を見取る場面」で設定した評価規準例を基に作成した。

(3) 評価の実際

計画通り、第2時、第3時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価を見取り方例シートの評価規準例に基づき設定した。また、この規準に到達できるか図るために、振り返りの視点も見取り方例シートのおりに示して評価した。振り返りを記入する際は、必要に応じて声掛けをしたり、生徒の振り返りに対してノートへのコメント等で生徒へ支援を行ったりした。

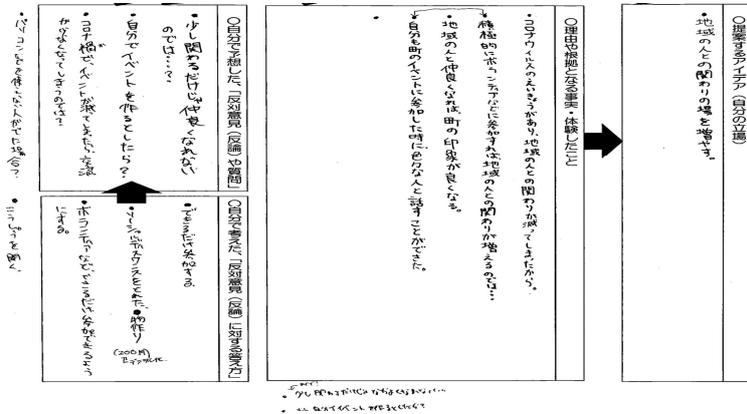


図7 生徒Aのワークシート(抜粋)

図7は第1時から使用した生徒Aのワークシートである。生徒Aは、アイデアはすぐに書き込んだものの、理由や根拠を上げる場面でなかなか書けずにいた。そこで「どんな場を作りたいのか」と声を掛けたところ、自分の考えを記入し、第2時、第3時の交流を通して加筆修正していた。

図7は第2時における生徒Aの振り返りである。交流では、似た

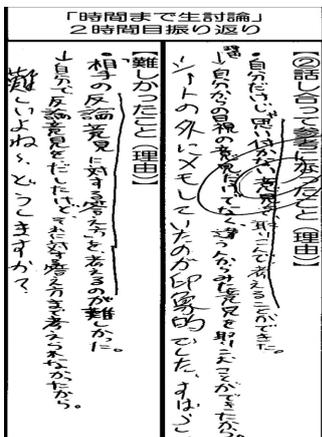


図8 生徒Aの振り返り(第2時)

提案をしていた生徒と積極的に話し合い、自分の考えを明確にしていた。振り返りをすぐに書き始め、内容からも、反論に対して自分なりの答えを出すために努力していたことが伺えた(図7)。またワークシートには枠外に必要なと思ったことを自らメモしていた。

図8は第3時における生徒Aの振り返りである。第3時には記録に残す見取りとして、次回の討論会に向けて予想される反論を考え、他者の意見も参考にしながら討論会に用いるメモをよりよくできるように試行錯誤しながら進めているかを振り返りを中心に見取り、必要に応じて生徒への指導支援を行いながら記録に残す評価とした。

生徒Aの振り返りからは、コロナ禍の制限下でできることを画策する難しさを実感していたことが分かり、討論会に向けて試行錯誤していたことが伺えた。また、自己の進捗状況等を把握し、その中で聞き手を意識し、できる限りメモを準備しようとしていたことが見取れたので、評価を見取り方例シートの規準と照らし合わせ、概ね満足できる状況(B)と判断した。

生徒Aをはじめ、指導に生かす見取りの段階から、教師が一人一人に支援すべき事柄が明確になったことが、次時の授業内においての適切な支援につながった。交流方法を称賛したあるグループの生徒たちは、第3時において想定した反論に対する回答を徹底して検討し合い、五つ以上の答え方をワークシートに書き込むことができた。

また生徒たちは、見取り方例シートの視点を振り返りで意識したことで、討論会開催というゴールに向かう過程において自身が学んだ事柄を実感したり、ゴールへ向けての意欲を高めていたりしていたこと

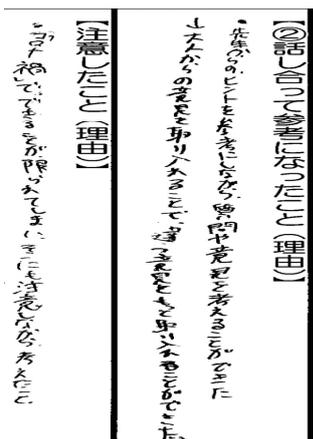


図9 生徒Aの振り返り(第3時)

が、記述内容から伺えた。ある生徒は、アイデアを町全体で取り組むことによってもたらせる効果を町内外両方の視点から話し合うことを「注意したこと」として記述し、第4時の討論会においては周囲を納得させていた。単元のゴール設定、指導に生かす見取りでの生徒とのやりとりが結果として第3時につながり、生徒全体の「主体的に学習に取り組む態度」を向上させることができたと言える。

以上の実践結果から、見取り方例シートを指導案に生かし、評価規準から振り返りを見取ること

3 見通し1・2を含めた評価

県内教諭を対象とした調査から、「指導に生かす見取りの場面があることで、生徒の状況が把握でき、必要と思われる手立てを授業の中で講じて、次の学習活動や記録に生かす見取りにつなげることができた」との回答があった。学校現場において、学習計画から授業実践の過程で、教師の想定と生徒の実態が乖離する場面は少なくない。しかしそのような場合でも、指導に生かす見取りによって、その後の授業改善にも、新たな学習計画にも生かすことができることが明らかになった。

また、振り返り後の生徒へのアンケートについて、実践された先生からは、「全てシートによってだと一概には言えないが」と前置きした上で、「生徒は『（当初よりも）最後の授業の方が、説得力のある意見を考え書くことができた』『考えが深まった』『説得力のある作文が書けるようになった』等の記述を返してきた」と報告を受けた。生徒自身が単元全体のなかで学んだことを実感し、今後説得力のある意見文を書く場につながる活動となったことを裏付けるものになったと言える。

以上の分析により、見取り方例シートの活用は、評価とともに指導改善に役立ったと言える。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 学習指導要領に示されている指導事項に沿った資質・能力を付けるための単元構想例と、教師にとって見やすく、使いやすい一単元一枚の見取り方例シートは「主体的に学習に取り組む態度」を適切に見取るための一例として有効に活用できる。
- 見取り方例シートを基にすることで、教師が単元を構想し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例から振り返りで見取り、単元を見通したり評価につなげたりすることができる。

2 課題

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、授業中の発言や行動など、生徒の姿を見取る姿勢も重要なので、振り返りだけで判断できない場合もある。
- 文章を記述することを苦手とする生徒への支援方法を、更に考慮していく必要がある。

VII 提言

教師が見取り方例シートを活用することで、生徒の実態を振り返りから捉えることができ、「主体的に学習に取り組む態度」の判断材料に役立てることができる。また、教師がシートを継続的に活用していくことで、「主体的に学習に取り組む態度」を見取ること慣れ、評価に対する不安感が解消されると考えられる。更には、見取り方例シートにより、指導事項とのつながりを確認する際や単元のゴールの設定、学習計画等を練る際に有効に活用できる。本研究では中学校第2学年を対象としたシートのみを開発したが、各校や各学年において、シートの利点を生かした更なる活用の広がり期待したい。

<参考文献>

- ・中央教育審議会答申（平成28年12月）
- ・文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（2018）
- ・国立教育政策研究所 「『指導と評価の一体化』学習評価に関する参考資料 中学校 国語」（2020）
- ・国立教育政策研究所 「『指導と評価の一体化』学習評価に関する参考資料 小学校 国語」（2020）

<担当指導主事>

尾形 一美 坂本 直之